



りっとう

立冬（7日）… 裏庭の柿がおいしそうに色付いていきます …

柿は一年おきに実るのが一般的ですが、ここ数年、裏庭の柿は毎年おいしい実りを届けてくれています。先日の樹木剪定の業者さんによれば、収穫の際に枝の剪定がうまくできているからではないかとのことでした。今年の収穫はいつになるでしょうか。お楽しみに。

### <金盞香 きんせんか さく 11月17日~21日>

立冬の末候は「金盞香」です。金盞とは水仙のことだそうです。昔、中国では、水仙の花の中心の黄色い部分を黄金の杯（さかずき）に、白い花卉を銀の台に例えて「金盞銀台」と呼んでいたのだそうです。

### <フェスタを通して育てた人との関わり>

運動会の代わりに開催した親子フェスタは、学年ごとの行事となりました。当日は待ち時間が少なく、近くで参観できてよかったという感想もいただきました。確かにそれも事実ですが、例年通りにできれば、異学年での関わりを自然にもつことができます。しかし、今回のやり方ではその部分が難しくなり、子どもたちに育てたい大事なことが抜け落ちてしまうことを心配していました。

### <先生たちの高い意識と配慮があればこそ>

先生たちには、そのことを意識して、折に触れて異学年の関わりのお機会をつくっていくように繰り返し伝えました。

第二校庭への移動は、感染予防を徹底して、年少児を年中・年長児が連れて行くようにすると、「車や段差に気を付けて」と、優しく声を掛けて歩く姿が見られました。年中組におぼけの王様から手紙やグッズが届くと、それがすぐに他の学年にも伝わっていきました。普通ならば、会が終わった後に見られる、お互いの踊りを交互に踊り合う姿が、フェスタの前週に見られて、驚くとともにうれしく思いました。

### <憧れや思いやりの心が育っています>

自分たちがもらったメダルを見せに行くことも、担任がひと言つぶやいたことがきっかけでした。異学年の関わりがうれしい子どもたちの姿につながっていることを担任自身も実感してきており、自然な形でそれが広がっていくように、さり気なくつぶやいたり、そっと背中を押したりして関わりを促していたのです。フェスタ後は全学年が一緒に踊ったり、年中児がリレーに混じったりする中で、憧れや思いやりの心が確実に育ってきている姿が見られています。



フェスタ前、年中児に踊りを見せる年少児



フェスタ前、年長児に踊りを見せる年中児



その後、お返しに年長児が踊りを披露



年少児のかけっこをみんなが応援



全学年の子どもたちが年長組のダンスを踊って楽しんでいます



憧れの年長児のリレーに年中児も入れてもらって大満足



こんなメダルももらったよ、見せてあげるね